

相田一人

相田みつを美術館館長

新井満

作家、作曲家、プロデューサー

対談



相田一人——あいだ・かずひと

昭和30年栃木県足利市に、書家・相田みつをの長男として生まれる。出版社勤務を経て、平成8年東京に相田みつを美術館を設立、館長に就任。相田みつを氏の作品集の編集に携わる一方、自身の著書に「父・相田みつを」(角川文庫)「書 相田みつを」(文化出版局)などがある。

新井満——あらい・まん

昭和21年新潟県生まれ。45年上智大学卒業後、電通入社。映像プロデューサーとして活躍する一方、51年に発表した組曲「月山」をはじめ、シンガー・ソングライターとしても活躍。小説家の顔も持ち、63年「尋ね人の時間」で第99回芥川賞受賞。その後、作者不詳の英詩を「千の風になって」として訳出・作曲して私家版のCDを制作、ロコミで多くの人に歌い継がれ、平成19年日本レコード大賞作曲賞を受賞。自由訳シリーズを含め著書多数。最新刊は妻・紀子さんとの共著「ハイジ紀行ふたりに行く「アルプスの少女ハイジ」の旅」(講談社)。

雨の日には雨の中を 風の日には風の中を

幼友達のために作者不詳の英語の詩を訳し、作曲した『千の風になって』が国民的ヒットになった新井満氏。一方、没後十七年がたつて、その作品がますます輝きを増し、現代を生きる人たちの道標となっている。相田みつをさんの美術館を運営するご子息・相田一人氏。ともに父母の教えに影響を受けて人生を歩んでこられたお二人が語り合う、人生賛歌——。